

第6章 成果と課題

本研究では、平成15～18年度の4年間にわたって、体系的な情報教育の推進を図るため、「児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力到達目標に関する研究」を行ってきた。これまでの研究成果と課題を述べる。

1 研究の成果

本県における情報教育の現状把握

情報教育の実態調査を通して、本県の情報教育の現状と課題を把握することができた。特に、「各教科・科目等におけるコンピュータやインターネットの活用場面を明記した年間指導計画またはシラバス」の作成状況は、県内の全公立高等学校では54%であったことを踏まえ、コンピュータやインターネットの活用場面を明記するよう指導したり、具体的な到達目標(例)を提示したりすることが本県の情報教育推進のために必要であることが分かった。

なお、平成15年から17年にかけての指導計画の作成状況については、小学校で41%から73%(32%上昇)、中学校で43%から68%(25%上昇)と伸びてきている。各学校においては、今後も作成に努めるとともに、内容の更なる充実を図っていただきたい。

情報教育の到達目標(例)の作成

情報活用能力の三つの観点について、小学校から高等学校までの学習内容を見通し、到達目標(例)として一覧表にまとめた。このことから、どの段階でどのような内容を指導すべきかを示すことができ、小・中・高等学校等を通した体系的な情報教育の推進が可能になった。

到達目標(例)に基づく普通教科「情報」のシラバス(例)の提示

到達目標(例)との関連を明確にした普通教科「情報」のシラバス(例)を示したことにより、各高等学校でのシラバスの作成が容易になるとともに、普通教科「情報」の指導を充実することにつながるものとする。

到達目標(例)に基づく授業の検証

小・中・高等学校段階で、到達目標(例)の妥当性と三つの観点の関連性を考慮した「情報活用能力の育成」の在り方について、実証授業を通して検証することができた。

また、具体的な授業の実際と考察を示したことにより、各学校における情報教育の推進を図ることが可能になるものとする。

2 今後の課題

すべての小・中・高等学校等において、「情報教育の全体計画」が作成され、「各教科・科目等におけるコンピュータやインターネットの活用場面を明記した年間指導計画またはシラバス」に基づいて、「情報活用能力の育成」を図る学習指導が行われるように、実践例の提供等の支援を継続する必要がある。

小・中・高等学校等の発達段階を踏まえた体系的な情報教育の推進と情報化の進展に対応した情報教育の充実を図るため、授業実践に基づいた到達目標(例)の妥当性の検証と見直しを継続的に行う必要がある。